

これからの算数・数学教育を考える会

「ICTも活用した不登校の子どもの算数・数学学習支援」

算数・数学の学びに向かう🧐💡

モチベーション(自己効力感)💪

を支える土壌づくりの必要性🌱



八幡市立男山中学校

1 はじめに👉😊

1 はじめに👉😊

- 文部科学省による長期欠席調査の概要
- 不登校の定義と分類 (①～⑤)
- 学びの再開は「授業の再開」にとどまらない
- 算数・数学が「自己効力感」の回復に適している理由
- 本セッションの目的：ICT活用による支援の可能性探究

• 文部科学省による長期欠席調査の概要

長期欠席（不登校等）に関する調査は、
「児童・生徒指導要録」の「欠席日数」欄の合計の日数により、
年度間に30日以上欠席した児童生徒数を理由別に分類している。

長期欠席の理由には、

「病気🏠」 「経済的理由💰」 「不登校❤️」 「その他」

の4つがある。

その中で、「不登校❤️」には、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）を計上する、とされている。

・不登校💗の定義と分類（①～⑤）

不登校の子どもたちを欠席数にて5つに分類👉

- ①年間30日～49日（10日以上/学期）
- ②年間50日～89日（20日以上/学期）
- ③90日以上（30日以上/学期）
- ④出席日数が10日以下
※行事のみ参加等
- ⑤出席日数が0日の者



図1；小・中学校の長期欠席（不登校等）割合

【本セッションでの提案の起点🌴🚩】

- ・学びの再開は「授業の再開」にとどまらない
→ ⚠️タイプに応じたアセスメントと継続した支援
- ・算数・数学が「自己効力感」の回復に適する
→ 「できたという達成感」を味わいやすい教科性
- ・子どもたちの自信につながる支援とは？
→ ICT活用による支援の可能性探究・環境設定

2 理論的背景🧠

2 理論的背景🧠

・バンデューラの自己効力感理論

- ・成功体験💪
- ・代理経験🔍
- ・言語的説得🗣️
- ・情緒的安定🧘💗

・算数・数学の特性と支援への適性👤

・ICT活用の意義と「安心して学べる土壌🌱」の重要性

Albert Bandura OC



ウィキペディア アルバート・バンデューラ より
カナダ🇨🇦の心理学者

バンデュラの自己効力感理論

【不登校支援において重要なこと🍎】

「自分にもできる」と思える体験積み重ね
▷バンデュラの自己効力感理論
ある行動を遂行することができる、
と自分の可能性を認識していること
を「自己効力感」と呼ぶ
自己効力感が強いほど実際に
その行動を遂行できる傾向にある
と述べている。



ウィキペディア アルバート・バンデュラ より
カナダの心理学者

自己効力感を大切にするエリート
世界の一流は休日
「自己効力感🌱」を育む



自己効力感を高める4つの条件🏠

以下の4つによって自信を育む🌱

- ①「成功体験」→自らが達成を経験する💪
- ②「代理経験」→他者の達成や成功のプロセスについて観察する🔍
- ③「言語的説得」→周囲から肯定的なサポートや支援を受ける🗣️🏠
- ④「情緒的安定」
→不安や抑うつ、認知反応スタイルなどの情緒的覚醒要因🏔️
▷これらの経験から効力感への影響を媒介すると考えられる。

算数・数学の特性と支援への適性👤

▷成功体験

問題を解く→即座に「できた」という体験を得る
自己効力感を高めやすい

▷「言語的説得」の観点

教師や周囲の大人が子どもにどのようなサポートをするのかが鍵🔑

▷⚠️注意せよ👉 算数・数学は「積み上げ型の学力体系」

既習事項の未定着👉①「学びに対する困難さ」を生じさせる

②「情緒的不安定」→行動の実践を妨げる懸念🔴

▷ICT活用；自分のペースで学べる環境を整えることが可能🟡

しかし、前提；「情緒的安定」を育む「安心して学べる土壌🏔️」が必要🍎



3. 実践事例紹介(3事例)

4. 成功の要因と課題

自己効力感の育成

「できるかも」「分かった!」という体験
自身を育てる支援が中心。バンデューラ理論

ICTの活用

自学自習の支援、反復練習、授業内容の共有
学習環境の補完として効果的なICTの使い方

成功体験の設計

小テスト、反復練習、モジュール学習など
達成感が得られる場面を意図的に作成

個別最適化された支援

生徒の状況に応じた柔軟な調整
支援の内容・タイミング・方法

情緒安定の配慮

失敗を許容する空間づくり、柔軟なスタンス、
安心できる関係性の構築が共通している。

【成功の要因】

支援が教員の経験や関係性に依存

支援記録の共有・標準化が必要

ICTスキルの差

教員研修とツールの統一が必要

時間・人手不足

支援体制の分担と効率化が必要

成果の見えにくさ

成果指標や記録の工夫が必要

教室との接続の難しさ

並行学習と復帰声援の設計が必要

保護者・外部機関との連携

情報共有と共同体制の構築が必要

【一般化への課題】

学習支援と生徒指導の両立

教育的支援と行動指導のバランスが必要

5. まとめと提案

【自己効力感を起点とした不登校支援の可能性🟡可】

- ▷「学びの再開」≠「単なる授業の再開」
- ▷「自分にもできるかもしれない」という感覚（自己効力感）を取り戻す
→算数・数学科が支援の入口に■
不登校の子どもたちの「自信の種🌱」になる可能性
- ▷支援の本質は「人👤」にある。
→ICTはその種を育てるための道具✍️
- ▷子どもが「できるかも!!」と思える瞬間づくり😌と習慣化📱
- 安心して学べる土壌づくり 関係性の構築 小さな成功体験の積み重ね
- ▷算数・数学を通じた不登校支援の新たな可能性を共有し、現場での実践へ

参考・引用文献

[1][児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査：文部科学省](#)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

[2]江本リナ，自己効力感の概念分析，日本看護科学会誌，vol.20，pp.39-45，2000年

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm

[3]安達智子，進路に対する自己効力感の規定要因：Bundura（1986）による4つの情報源の比較，日本教育心理学会第44回総会発表文集，vol.20，p.138，2002年

https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjaep/44/0/44_138/_article/-char/ja/



研究主任 R6エバンジェリスト

木村 徳宏
KIMURA NORIHIRO
京都府八幡市立男山中学校

自分を大切に 他人を大切に



note📌に連載中です👉
フォロー&立読お願いします



X(旧Twitter)👉アカウントです👉
フォロー&メッセージ待ってます👉